

プログラム名 (40字以内)	伊豆の体験活動 ―南伊豆という一地域との連携に学ぶ―		
団体名/所属	農学生命科学研究科附属演習林		
活動区分	農林水産業などに関わる地域体験活動	希望する選考方法	書類審査後に面接
募集人数	4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	意欲的に取り組む主体性と、申し込んだからには絶対にキャンセルしないという本気度(旅行したいなあという軽いノリはご遠慮ください)		
活動期間	① 2026/2/14(土)～16(月) ② 2026/3/14(土)～17(火) ※2/13(金)、3/13(金)に伊豆に集合(時間等は相談して決める。例年17時ごろ)。	主な活動予定場所	静岡県南伊豆町
プログラム実施の目的	東大生の皆さんは、受験勉強中心の学び方が身に沁みついていないでしょうか。入試は制限時間内で多く正答することが求められるので、自ずとそういう技術を磨くことが重視されるし、制限時間内で正答できそうにない問題は捨てる覚悟も重要になります。皆さんは、知らず知らずのうちにそういう規定のルール上から逸脱しないことが最重要ということになっているかも知れません。東大生の皆さんの思っている規定のルールの上にはきっと山林や林業と向き合うということは存在していないでしょう。体験活動は、そういった未知の世界に飛び込んで様子を肌で感じるができるチャンスです。規定(?)のルールから あえて外れてみる機会を得ることを、東大生には是非ともお勧めしています。少し社会を俯瞰できるようになれば上 来。呑み込みの好い東大生は知った気分になってしまうことがある。「知っているつもり」はとても危うい。この体験活動 は様々な問題が発生している現場を意識する(見る・感じる)ことの重要性を体感してもらうことを主目的とする。東京にては見えづらい・感じづらい里地里山が抱えている諸問題に向き合い、地域の方々と連携して取り組むことを通して、問題に気づく心と問題解決に取り組む実行力を鍛える。何より地域の方々の東大生に向けた期待を実感して欲しい。		
具体的な内容(800字程度)	伊豆の体験活動では、コミュニケーション・他者や社会との連携を重視して取り組み、自分が社会から期待されているという実感、そして自分が社会とのつながりの中で活躍できるという実感を得て、気概・心をたくましく育てて欲しい。東京の様な大都会よりもずっと「人の営みの原点」が見えやすい南伊豆の里地里山を学びの舞台として、そこに暮らす地域の人々との連携を本活動の核心に据えている。獣害や竹林の問題について、地域で諸問題と向き合っているNPOの皆さんと一緒に行動して考えてみよう。そしてそのNPOの皆さんの熱い思いに触れ、意見を交わしていただきたい。大学外に飛び出して、地域NPOとの連携を通して、現実目に向け解決に取り組む体験に没頭しよう。全身体験ゼミと大きく異なり、完結性は追求せず、一点を掘り下げることを重視する。下記①日程では獣害に関する取り組みを題材とし、農を掛けることから始めてインシシやシカを解体し、ソーセージにまで加工する。それを五月祭にて販売して、この取り組みを完結してみよう。②日程では林業体験を行う。バイオマス発電が動き出すという南伊豆町において、木質エネルギー(薪)生産に取り組んでもらう。斧で割る実映やエンジン式薪割り機の正姿を体験したり、プロの手ほどきを受けながら安全に留意してチェーンソー体験をしたり。仕上げは、自分たちで製造した薪が使われる現場に納品する。伊豆半島は古より産物の産地であり、今も昔ながらの製法が生きている。産物と一緒にいふされるのは二度と経験できないことかも知れない。そして、この体験だけの関わりで済まずに活動参加者のコミュニティーに関わり続けてもらいたい。 ①②14(土)～16(月):伊豆(獣害と向き合いソーセージを作る) ②③14(土)～17(月):伊豆(林業と向き合う) 2/13(金)、3/13(金)に伊豆に集合(時間等は相談して決める。例年17時ごろ)。		
【総額】参加するための費用	51,000円(①②の2回分)		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	12,000円(2回分)		
【内訳】参加するための費用(交通費)	23,000円(特急指定席・学割利用、2回分)、下田駅から先の交通費4,000円(2回分)		
【内訳】参加するための費用(その他)	12,000円		
奨励金額(予定)	25000円		
備考	服が汚れます		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		